

6月定例市議会がおわりました 議会はどれだけ市民の願いをつたえたのか

11日、6月定例市議会は、「物価に見合う年金引き上げを政府に求める請願」の委員長報告と採決、平成21年度沼田市一般会計補正予算(第2号)ほか特別会計3件の質疑、採決、人権擁護委員(4人)の推薦について、「新たな過疎対策法の制定に関する意見書案について」、沼田市議会議員定数条例の一部を改正する条例について、討論、採決がおこなわれ閉会しました。

「物価に見合う年金引き上げを政府に求める請願」は、原油や穀物の高騰により、消費者物価が依然高い水準で推移していることから、物価に見合うよう年金の引き上げを求める意見書を政府に提出してほしいというもので、日本共産党を代表して大東議員は、請願を採択し、意見書の提出を求めましたが、採決では日本共産党の2人と無会派の議員1人が賛成しましたが、賛成少数で不採択となりました。

市政をチェックし市民の要望をつたえ活発に議論することが議会の仕事 議員定数の削減は市民の目・耳・口をふさぐこと

議会最終日の11日、市議会議員の定数を27人から22人へと5人減らす議案が提案され、賛成多数で可決され、次回の選挙から定数が22人となります。

討論で大東議員は、「議員定数を削減することは、市政をチェックすることや市民要望を反映させることを狭めるだけで、市民の目・耳・口をふさぐことになる」と指摘し、反対を表明しました。

この議案は議員提案だったにもかかわらず、賛成討論がなく、こうした議論のなさが市民の不信を招く要因の一つといえます。

大東のぶゆき議員の一般質問 市民の足を守れ 乗り合いタクシーの存続を!

大東のぶゆき議員は、乗り合いタクシーについて、観光について、住宅リフォームの助成について、一般質問をおこないました。



「何らかの対応をしなければと考えている」と市長が答弁

大東議員は、9月末で廃止が予定されている乗り合いタクシーについて、10月以降もひきつづき運行し、市民の足を守るよう求めました。

市長は、「収支率が20%を超えることで、県の補助対象となる。(20%にならなかったので)止むを得ず判断した。」と、廃止の理由を述べました。

市民の足としての乗り合いタクシーの存続を重ねて求めた大東議員に市長は、「何らかの対応をしなければと考えている」と答えました。

さらに大東議員は、切れ目のない対応を求め、市長は「不便をかけないようにしたい」と答えましたが、具体的な対応については示しませんでした。



2009年6月21日 NO. 177

日本共産党 大東のぶゆき議員活動地域後援会ニュース

やまびこ

発行所 沼田市下久屋町983 TEL 23-1519 部内資料



でもっとも甘い汁を吸ったといわれています。
四年前の衆議院選挙で自民党や公明党は、郵政民営化で「日本経済はたちどころによくなる」と言っていました。が、「郵政民営化利権」であったことは、今回のことでも明らかになりました。

でもっとも甘い汁を吸ったといわれています。

こんには。日本郵政の西川善文社長(三井住友銀行元頭取)の進退問題で、「かんぼの宿」などに重大な責任があるとして、西川社長の留任を「許可しない」と表明してきた、鳩山邦夫総務大臣が辞任しました。
これに対して郵政民営化を進めてきた小泉・竹中派や財界が反発し、麻生首相が西川社長の留任を決めたことにより、事実上の更迭となりました。
日本郵政が「かんぼの宿」など七十九施設をオリックス不動産に、建設費二千四百億円の二十分の一以下の百九億円で、まともな入れもやらずに売却しようとしたり、西川社長の出身銀行である三井住友グループが、郵貯銀行のカード事業などで、郵政民営化

こんには 大東のぶゆきです

ぶらり散歩 めまた道 利南地区 その五 沼須町

諏訪石と片品川の渡し跡

沼須町は、沼田城の南方に位置し、戦国時代には真田氏と北条氏が片品川をはさみにらみ合い、しばしば戦場ともなりました。

徳川幕府が誕生し、沼田も真田氏によって安定すると、沼田の表玄関となり、慶安四年(1615)から宿割りをはじめたと阿左美日記に書かれています。

東西に広がっていた民家を中央に南北にあつめ、道路は広く、中央に堰が流れ、沼田の殿様が参勤交代でこの道を利用し、船で昭和村の森下に渡りました。

宿割がされる以前は、畑のなかにある巨石のまわりでくらす



諏訪石

いたようで、土器などが出土しました。
この巨石を「諏訪石」とよび、農業と水の神として信仰されてきました。

沼須町は、片品川の氾濫が何度もありましたが、「諏訪石」は流されることなく、残されてきました。

※前回のくじ神様と色地蔵は、戸鹿野町でなく栄町にあります。訂正し、おわびいたします。